

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成29年1月12日

協議会名:新城市地域公共交通会議

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度(1.0を基準値(普通)とし、0.8~1.2の間で数値が高いほど満足度が高い) の3項目で評価	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
豊鉄タクシー株式会社 西部線 (地域内フィーダー系統)	川田原滝～ 新城東高校	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。 ・平成29年1月より、ルートの変更、川田・豊島地内にバス停4か所新設した。	A 市内で最も沿線人口・65歳以上共に最多となる西部地区本路線は、市中心部の市民病院などへの通院や買物等に出かけるための重要な路線となっている。事業は、計画どおり実施できた。	B ①利用者数 目標3,882人/実績3,209人 →達成度82% ②収支率 目標8.19%/実績6.90% →達成度84% ③利用者の満足度 目標1.12/実績1.12 →達成度(基準値1.0との差 +0.12)  ・主たる利用者 高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (総 数) 3,209人(28年度)-3,480人(27年度)・・・▲271人	この路線の利用者は、主に高齢者であり、高齢者が市中心部の病院への通院、買い物に出かけるための路線となっている。今後は高齢利用者の利便性向上と新たな高齢利用者の獲得のため、利用促進策や情報提供に努めていきたい。
新城市 塩瀬線 (地域内フィーダー系統)	上島田 ～大海駅・玖老勢	・従来のJR飯田線への接続に加え、一部の便を玖老勢まで延長し、地域間幹線へ接続させることで、利便性向上を図った。 ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 小中学生の毎日の通学の足として、また高齢者の通院や買物の足として適切に運行ができた。また、他の路線との接続を考慮し、市中心部への利便性を確保することができた。	C ①利用者数(子供利用を除く) 目標1,560人/実績1,415人 →達成度90% ②収支率 目標9.97%/実績4.85% →達成度48% ③利用者の満足度 目標1.05/実績0.98 →達成度(基準値1.0との差 -0.02)  ・主たる利用者 中学生、高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (子供利用除く) 1,415人(28年度)-1,607人(27年度)・・・▲192人 (総 数) 5,423人(28年度)-6,298人(27年度)・・・▲875人	28年4月に路線見直しを行った。継続的に『布里田峯線(塩瀬線)を守り育てる会』を開催し、さらに沿線住民が利用しやすい路線となるよう検討を進めていく。
新城市 つくであしがる線 (地域内フィーダー系統)	診療所～診療所 (曜日ごと路線が異なる循環運行)	・自治振興事務所担当職員との情報共有・情報交換の実施。 ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 各集落の生活を維持するために欠かせない路線であり、地域の生活を支えるための運行を実施することができた。	B ①利用者数 目標1,193人/実績1,176人 →達成度98% ②収支率 目標3.06%/実績2.57% →達成度83% ③利用者の満足度 目標1.20/実績1.15 →達成度(基準値1.0との差 +0.15)  ・主たる利用者 高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (総 数) 1,176人(28年度)-976人(27年度)・・・200人	路線の主な利用者は通院・買物を目的とした高齢者であり、各集落を週に1度以上通るフリー乗降であるため、高齢者から「家の前で乗れ都合がいい」との声が多い。ただ、高齢化率は40%を超えている地域であることから、今後益々増える高齢者がマイカーに頼らず安心して通院等ができるように、バス利用のPRを積極的にいき新たな利用者の獲得を目指す。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度(1.0を基準値(普通)とし、0.8~1.2の間で数値が高いほど満足度が高い) の3項目で評価	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
新城市 中宇利線	新城市東高校 ～小畑	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	①利用者数(子供利用を除く) 目標15,267人/実績14,751人→達成度96% ②収支率 目標32.08%/実績35.85% →達成度111% ③利用者の満足度 目標1.08/実績1.05 →達成度(基準値1.0との差 +0.05) ・主たる利用者 小学生、高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (子供利用除く) 14,751人(28年度)-15,597人(27年度)・・・▲846人 (総 数) 50,931人(28年度)-54,297人(27年度)・・・▲3,366人	小学生の輸送が主な利用目的となっており、一般の利用者数は全体の28%程度となっている。 28年度は高齢者の通院利用が減少しているため、バスマップ配布を始めとした利用促進策・情報提供に努め、通院・買物に便利な路線としていく。
新城市 吉川市川線	新城市民病院 ～市川	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	①利用者数(子供利用を除く) 目標3,067人/実績3,497人→達成度114% ②収支率 目標11.41%/実績12.14% →達成度106% ③利用者の満足度 目標1.06/実績1.10 →達成度(基準値1.0との差 +0.10) ・主たる利用者 小学生、高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (子供利用除く) 3,497人(28年度)-3,417人(27年度)・・・80人 (総 数) 10,337人(28年度)-10,617人(27年度)・・・▲280人	小学生の輸送が主な利用目的となっており、一般の利用者数は全体の33%程度となっている。 28年度は通学時間帯以外の高齢者の通院利用が増加しており、引き続きバスマップ配布を始めとした利用促進策・情報提供に努め、通院・買物に便利な路線としていく。
豊鉄タクシー株式会社 北部線	緑が丘 ～新城郵便局	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	①利用者数(子供利用を除く) 目標4,983人/実績3,389人→達成度68% ②収支率 目標15.63%/実績9.10% →達成度58% ③利用者の満足度 目標1.14/実績1.07 →達成度(基準値1.0との差 +0.07) ・主たる利用者 小学生、高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (子供利用除く) 3,389人(28年度)-4,079人(27年度)・・・▲690人 (総 数) 6,803人(28年度)-8,082人(27年度)・・・▲1,279人	市中心部へアクセス可能な路線であり、鳳来北西部からの乗り継ぎ利用者も見られる。乗り継ぎ可能である塩瀬線利用PRを行い、高齢者の通院等によるバス利用者の新規獲得を目指す。
新城市 秋葉七滝線	本長篠 ～向久保	・小中学生の登校時間に配慮したダイヤ変更と増便の実施。 ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	①利用者数(子供利用を除く) 目標3,357人/実績2,350人→達成度70% ②収支率 目標15.48%/実績10.16% →達成度65% ③利用者の満足度 目標1.06/実績1.10 →達成度(基準値1.0との差 +0.10) ・主たる利用者 小中学生、高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (子供利用除く) 2,350人(28年度)-2,550人(27年度)・・・▲200人 (総 数) 8,519人(28年度)-8,646人(27年度)・・・▲127人	小中学生の輸送が73%を占め、一般の利用者は27%程度となっている。小中学生の通学利便性向上のためのダイヤ等の見直しを実施したものの、一般利用者の利用者減少となっていることから、今後も守り育てる会を開始し、一般利用者の声を反映できるよう地元住民と共に考えていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度(1.0を基準値(普通)とし、0.8~1.2の間で数値が高いほど満足度が高い) の3項目で評価	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
新城市 布里田峯線	玖老勢 ～稲目トンネル口	・路線を一部延長し、鳳来中学校まで直接登校できるルートの新設することで、中学生の登校時の利便性向上を図った。 ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ①利用者数(子供利用を除く) 目標224人／実績620人→達成度276% ②収支率 目標8.90%／実績10.98% →達成度123% ③利用者の満足度 目標1.04／実績1.07 →達成度(基準値1.0との差 +0.07) ・主たる利用者 小中学生、高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (子供利用除く) 620人(28年度)-391人(27年度)・・・229人 (総 数) 4,254人(28年度)-3,575人(27年度)・・・679人	28年4月に路線見直しを行ったが今後も、継続的に『布里田峯線(塩瀬線)を守り育てる会』を開催し、さらに沿線住民が利用しやすい路線となるよう検討を進めていく。
新城市 長篠山吉田線	本長篠～ 郷ヶ平～田沢	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数(子供利用を除く) 目標2,475人／実績2,246人→達成度90% ②収支率 目標31.52%／実績27.53% →達成度87% ③利用者の満足度 目標1.09／実績1.04 →達成度(基準値1.0との差 +0.04) ・主たる利用者 小中学生、高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (子供利用除く) 2,246人(28年度)-2,054人(27年度)・・・192人 (総 数) 17,206人(28年度)-16,290人(27年度)・・・916人	主な利用者は鳳来中部小学校、鳳来中学校の児童生徒だが、通院・買物・通勤を目的とした一般利用者もいる。利用者の多くは本長篠BTを経由して新城方面を目的地とするが、竹平バス停から遠鉄バス洪川線を利用することで、浜松市中心部との往復が可能となる。浜松市への『玄関口』としての一面もPRし、バス接続にも配慮したい。
新城市 (～28.3.31) 本長篠海老線 (28.4.1～) 四谷千枚田新城線 (豊鉄バス(株)路線)	(～28.3.31) 本長篠 ～海老・ 海老車庫前 (28.4.1～) 本長篠 ～四谷千枚田口	・路線見直しのためのアンケート実施 ・28年4月から四谷千枚田新城線に変更。 ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	①利用者数 実績7,752人 ③利用者の満足度 1.05→達成度(基準値1.0との差 +0.05) ・主たる利用者 小中学生 ・利用者数の推移 (総 数) 7,752人(28年度)-6,319人(27年度)・・・1,433人	28年4月に四谷千枚田新城線に変更し、四谷地区の中学生及び高齢者の利便性向上を図りました。観光地である四谷千枚田付近にバス停を設置したので、観光客への周知も図っていきたい。
新城市 作手線	新城富永 ～作手高里	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ①利用者数 目標40,142人／実績42,997人→達成度107% ②収支率 目標25.48%／実績27.95% →達成度109% ③利用者の満足度 目標1.01／実績1.00 →達成度(基準値1.0との差 +0.00) ・主たる利用者 高校生、高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (総 数) 42,997人(28年度)-43,326人(27年度)・・・▲329人	作手地区と新城地区を結ぶ重要な路線であり、平成22年10月からはそれまでの距離制の運賃制度からゾーン制に切り替え、増便も行い利便性を高めた。主に高校生の通学や高齢者の通院・買物に利用されている。アンケート調査の結果なども参考にしながら、満足度の高い路線となるよう努めていく。
新城市 守義線	鳴沢橋 ～診療所前	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ①利用者数(子供利用を除く) 目標1,948人／実績2,505人→達成度128% ②収支率 目標5.78%／実績8.90% →達成度153% ③利用者の満足度 目標1.16／実績1.14 →達成度(基準値1.0との差 +0.14) ・主たる利用者 中学生、高齢者 ・利用者数の推移(対27年度比) (子供利用除く) 2,505人(28年度)-2,236人(27年度)・・・269人 (総 数) 4,687人(28年度)-4,252人(27年度)・・・435人	作手中学校の生徒輸送が47%を占める他は、通院・買物を目的とした一般利用者となっている。一般利用の多くは高里地区内の診療所と買物を目的地としているが、高里バス停から作手線に乗り換え新城地区へ向かう利用者もある。通院・買物のために利用している高齢者に、分かりやすい情報提供を実施し、外出支援の一助となるバス路線を目指したい。